

教育委員会会議録（9月定例会）

日 時

令和2年9月24日（木）
午後1時30分から午後2時10分まで

場 所

日立市役所 304・305号会議室

出席委員

教育長	折笠 修平
教育長職務代理者	中村 雅利
委 員	上村 由美
委 員	朝日 華子
委 員	土屋 静治

委員以外の出席者

教育部長	窪田 康德
理事	清水 透
総務課長	松本 正生
学校施設課長	石川 涉
学務課長	藤田 剛
生涯学習課長	作山 直弘
スポーツ振興課長	木下 俊雄
指導課長	森山 秀一
指導課課長	稲田 訓子
郷土博物館長	宮内 雅弘
記念図書館長(兼)視聴覚センター所長	山田 美幸
教育研究所長	小池 洋一
北部学校給食共同調理場長	赤津 光司
保健福祉部子ども施設課長	寺山 一男
総務課副参事(兼)庶務係長	西 勇人
総務課課長補佐(兼)計画財務係長	鎌田 理恵
総務課主幹	吉野 成実
総務課主幹	芳賀 秀人

議 事

報 告

報告第9号 教育委員会8月定例会の会議録について

その他

- (1) 令和2年第3回市議会定例会について
- (2) 新型コロナウイルス感染症対応ふるさとひたち学生応援事業の実施結果について
- (3) 「ひたち大好きパスポート」令和2年度夏休み期間中の利用状況について
- (4) 令和2年度日立市立幼稚園等の園児募集について
- (5) 文学講座「物語を食べて大きくなった～児童文学作家中村真里子さん講演会～」について

会 議 の 概 要

1 開 会

教 育 長 それでは、ただ今から教育委員会9月定例会を開会します。
本日は、傍聴希望者が1人おります。
傍聴を認めてよろしいでしょうか。

全 委 員 結構です。

(傍聴人入室)

2 報 告

報 告 第 9 号 教育委員会8月定例会の会議録について

教 育 長 それでは、まず、報告第9号について御意見を伺います。
いかがでしょうか。

全 委 員 特にありません。

教 育 長 それでは、本件については、承認されました。

3 そ の 他

(1) 令和2年第3回市議会定例会について

教 育 長 続きまして、その他に移ります。
その他(1)について、教育部長から説明をお願いします。

教 育 部 長 会期は9月3日から9月28日までの26日間です。
今回の定例会につきましても、新型コロナウイルス感染症対策として、本会議は傍聴なし、議案質疑なし、一般質問のみの対応となっております。教育委員会関連では、3人の議員から御質問をいただきました。

まず、日立市政クラブの今野幸樹議員です。感染症対策等から考える今後の学校の在り方について、子どもの「数を集める」ことは、感染症対策の視点から考えたときに好ましくなく、リスクも多いと考える。今回の新型コロナウイルス感染拡大等を踏まえた、今後の学校再編の在り方について伺うという御質問でした。こちらに対し

ては教育長答弁で、身体的距離の確保が可能なオープンスペースと教室との一体的な整備、オンライン学習ツールの整備など、今後も起こり得る危機に対応できるよう備える必要がある。一方で、学校は、児童生徒が多くの人達や教師との関わり合いの中で、確かな学力と共に豊かな心や社会性、多様な価値観など、様々な力を身に付ける場であることから、一定規模の集団の中で学び合うことについても重要であると認識している。学校再編を契機に、ハード・ソフト両面からの学習環境整備を進め、学校再編の主役である子どもたち一人一人が輝くことができる安全・安心な学校づくりを推進していく旨お答えしました。

2人目は、民主クラブの堀江紀和議員です。公設児童クラブの待機児童解消についての御質問をいただきました。まず、クラブ室の確保について、学校内の特別教室を利用状況に応じて統合することで生じた余裕教室をクラブ室に転用することや、学校施設内にプレハブを設置しクラブ室を整備してはどうかという御提案でした。こちらに対しましては、特別教室は、本来の使用目的が妨げられないよう、学校と十分な協議を行い、理解と協力を得ながら進めていく。また、学校敷地内へのプレハブ設置についても視野に入れ、検討を進めていく旨答弁しました。次に、学校内にクラブ室を確保できない際の対応策として、交流センターや休園中の幼稚園など、学校近隣の公共施設を活用してはどうかという御質問をいただきました。こちらに対しましては、学校敷地外への移動には、交通事故などのリスクがあり、児童によっては、担任教諭から直接児童クラブの支援員に引渡しが必要な場合もあるため、児童の安全を最優先に、これまでも学校敷地内にクラブ室の整備を進めてきた。今後も引き続き、児童の安全面を重視した整備を進めていく旨答弁しました。

次に、クラブ支援員・補助員の確保について、労働意欲のある高齢者や近隣大学の学生などの地域人材を積極的に活用してはどうかという御質問をいただきました。こちらに対しましては、現在、支援員等の確保については、各クラブの運営協議会が各学区コミュニティ等の地域の協力を得て行っている。また、長期休業期間は、開設時間も長く、必要な人員の確保が難しいことから、大学生等の協力を得て運営している。今後も、安定した児童クラブの運営のため、子育て経験者や教員を目指す大学生など、広く運営に参加していただける人材の確保に努めていく旨答弁しました。また、支援員・補助員への応募意欲を高めるためにも、経験年数に応じて手当を支給するなどの処遇改善を図り、それをPRすることにより人材の確保につなげてはどうかという御質問です。こちらに対しましては、国の補助制度を活用して支援員の処遇改善に取り組み、支援員の確保にもつなげていきたいと考えている旨答弁しました。

3人目は、日本共産党の小林真美子議員です。

少人数教育の拡充について御質問がありました。新型コロナウイルス感染症への対策として「少人数編制を可能とする教員の確保」について、全国知事会、全国市長会等が国に要望書を提出している。本市においても、新型コロナウイルス感染症対策として、国の制度改正を待たずに、教員加配、スクールカウンセラー等の増員が必要と考えるが、現在の状況と市の考え方を伺うという御質問でした。こちらに対しましては、本市では他市に先駆け、児童生徒一人一人へのパーテーションの設置や、レバー式蛇口への交換、マスクや消毒液の配布等の対策を講じ、感染予防の徹底を図ってきた。また、国の制度改正を待たず、本市独自の取組として、少人数指導教員、理科支援教員、生活指導員を配置し、1クラスを複数で支援する体制を整えている。今回の感染症対策においても、学校内の消毒作業等のため有償ボランティアを募集したところ多くの方々に応募をいただき、現在、各校の環境整備に当たっていただいている。さらに、スクールソーシャルワーカー、学力向上アドバイザー、教育相談員の配置など、学校へのサポートを通じて、児童生徒の健全育成にも取り組んでおり、これらの人的配置は全国的に見ても充実したものである。今後も児童生徒一人一人を大切にした教育を推進するとともに、少人数学級の拡充について、引き続き県を通じて国に要望していく旨答弁しました。

教育福祉委員会では、各議案について御審議いただいたところで、来週月曜日に議決となる見込みです。

委員 まず、堀江議員の一般質問に関連して、児童クラブの待機児童がいるのか、いるとすればその数を教えてください。また、支援員、補助員が不足しているようですが、実態について教えてください。

生涯学習課長 まず、待機児童についてお答えします。9月1日現在の公設児童クラブにおける待機児童は、24クラブ中4クラブで発生しており、人数は29人です。うち3クラブ、20人については、今後クラブ室の整備等により解消される見込みです。残る1クラブ、9人については、今後学校と十分な協議を行い、理解と協力を得ながらクラブ室の確保に努めますとともに、クラブの運営を委託している運営協議会と連携して、支援員、補助員の確保に努めてまいります。

次に、支援員、補助員の不足についてです。公設児童クラブにおいて、支援員、補助員が不足する場合は、各運営協議会が独自に地域などからの人材の確保を行っておりますが、適当な人材が見つからない場合には、シルバー人材センターに派遣を依頼した例があります。現在1クラブにおいて、1名の補助員が派遣されており、今後、更に1クラブ派遣され、計2名の補助員の配置が予定されています。

委員 ありがとうございます。待機児童が29人いるということで、何とかしなければいけないと思いますが、クラブ室を増やすとなると、児童生徒数が減っているとは言え、学校側としては教室に余りが出ている状況ではないのではないのでしょうか。空き教室をクラブ室に充てるということができれば良いと思いますので、是非その辺りを工夫しながらお願いしたいと思います。

支援員、補助員については、地域には隠れた人材がいると思いますので、もう少し幅広く募集しても良いのかなと思います。

また、議会の答弁にもありましたが、児童クラブのクラブ室は、私も学校が適切だと思います。引渡しを考えると別の場所よりも学校の中に置くべきだと思いますし、プレハブ等も視野に入れているとのことですので、是非クラブ室の確保についてよろしく願います。

次に、要望です。今野議員、小林議員、それぞれの質問にもありました新型コロナに関連して、教室内が密になってしまっている状況で、学校によっては、1教室40人にもなると心配な部分があります。30人から35人ぐらいになればいいとは思いますが、答弁にもありましたように、国の制度改正を待たずに少人数指導教員を確保していただくと、学力向上という意味でも効果的だと思います。予算の都合上難しいかもしれませんが、市独自の配置についても是非御検討をお願いします。

(2) 新型コロナウイルス感染症対応ふるさとひたち学生応援事業の実施結果について

教育長 それでは次に、その他(2)について、総務課長から説明をお願いします。

総務課長 まず、事業の概要です。新型コロナウイルス感染症の影響で、帰省等の移動の自粛やアルバイト等による生活費の確保が困難となっている市内外の大学生等に対し、応援メッセージと共に市の特産品やおうちでひたちごはん応援チケットを送ることで、経済的及び精神的な支援に取り組んだものです。事業実施により、当初の目的を達成できたものと考えております。

次に、支援の内容についてです。市外の大学生等に対しましては、応援メッセージ及び本市特産品5,000円相当を送付しました。8月31日現在で支給決定件数1,920件となっております。なお、申込件数は2,023件で100件ほど開きがありますが、これは重複申請や市内在住者が申請をしたことが理由となっていま

す。このうち重複申請については、今回電子申請を基本としてお願いしたという経緯もあり、学生によっては、一度申し込んだ後なかなか特産品が届かず、再度申請してしまったというケースもありました。

次に、市内の大学生等に対しましては、応援メッセージと市内飲食店で利用できるチケット3,000円分を送付しました。支給決定件数1,254件で、対象者数を3,100人見込んでいましたが半分以下となり、若干少なかったという印象を持っております。もともと、対象者は推計ということではありましたが、やはり市外対象の特産品を選べるものに対して、チケットでは選択ができないということ、お店も市内登録店のみとなっていたことがネックとなり、件数が伸びなかったのではないかと推測しております。

次に、学生等から寄せられたメッセージについて報告します。5件メッセージを頂き、全て市外の学生からのものでした。市内在住の学生からは反応を頂けなかったところです。

メッセージは、「不安な日々を送っていたが、日立市から頂いた温かな支援によって不安も薄れ、心が癒された」、「新型コロナウイルスによる事態が落ち着いたら帰省して直接ふるさと感じたい」、「今後も熱心に学業に励もうと改めて感じさせられた」との内容で、我々職員も、取り組んでよかったという感想を持っています。

次に、特産品の支給決定件数についてです。最も申込みが多かったのが常陸牛ロース焼き肉用で、全体の半分以上の997件の申込みがありました。2番目に多かったのはカレーと米セット、3番目は国産豚の味噌漬けセットということで、肉関係が多かったという結果になりました。

委員 確認をさせてください。申込件数と支給決定件数の差は、二重申請等によるものとありますが、二重申請等がなければ、申込みのあったものについては全て支給が決定したという理解でよろしいのでしょうか。

総務課長 二重申請のほかに、市内在住の学生は特産品の送付は対象となりませんので、申込みいただいても対象外ということになります。件数は、二重申請の方が約50件、市内在住者が約30件でした。

委員 分かりました。しかし、二重申請はあくまで申込者本人のミスでしょうから、これは申込件数に入れず、実際に申し込んだ人と決定した人の差がどれくらいなのかを計る方が、統計的には良いのではないかと思います。

総務課長 ありがとうございます。それらの数字についても押さえておきた

いと思います。

(3) 「ひたち大好きパスポート」令和2年度夏休み期間中の利用状況について

教 育 長 それでは次に、その他(3)について、生涯学習課長から説明をお願いします。

生涯学習課長 去る7月22日の定例会で説明いたしました、ひたち大好きパスポート令和2年度夏休み期間中の利用状況について報告します。

まず、今回の取組の内容です。小・中学生が、新型コロナウイルスの感染拡大により短縮となった夏休みを有意義に過ごせるよう、今年度に限り、8月6日から8月16日まで、従来の公共施設の無料利用日である土曜日、日曜日に加え、平日及び祝日の7日間、ひたち大好きパスポートを施設に提示することで、無料で利用できることとしたものです。

利用状況についてです。令和2年8月の利用者は1,317人で、そのうち、夏休み期間中の利用者は905人、うち平日及び祝日は367人でした。年度間の比較では、令和2年7月は新型コロナウイルスの影響もあり286人で、前年度同月比63%の減でしたが、8月は1,317人で、前年度同月比27.1%の増となりました。今年度、シビックセンター科学館及びじゅうおう市民プールが休止する中、8月の利用者は大きく増加する結果となりました。施設別の利用状況では、小学生のプールの利用が多く、中学生はテニスコートの利用が多いという結果になりました。

まとめといたしまして、今回の取組により、公共施設の利用促進を図ることができました。また、新型コロナウイルス感染予防として、市外への外出抑制につながったものと考えております。今回の結果を踏まえまして、小・中学生の身近な場所での活動促進を図るため、冬休みや春休み期間中の平日及び祝日の公共施設の無料利用についても、今後検討してまいります。

委 員 確認なのですが、この人数の中に、パスポートを持ち忘れてしまって、当日は提示できなかった子の数も含まれていますか。

生涯学習課長 こちらの人数の中には、当日パスポートを持ち忘れてしまった方の数は含まれておりません。

委 員 そうすると、施設の実際の利用者数はこの人数から更に増えるということになりますか。

生涯学習課長 実際的人数は把握しておりませんが、パスポートを持たず有料で利用されたお子さんも多少はいらっしゃるかと思います。

委員 ひたち大好きパスポートについて、初めてこのようなデータを見た気がします。ありがとうございます。以前、この事業にどのくらいの予算を組んでいるのかお聞きしたと思いますが、その時は確か30万円くらいと伺ったと思います。実際パスポートの所有者は1万7,000人くらいいると思うので、今回の報告で約10%の子どもたちが利用していることが分かりました。それを高いと見るか低いと見るかというところもあるかと思いますが、施設別の利用状況を見ると、スポーツ施設に限られてしまっているところも一つの問題なのかなと思います。このパスポートはそもそも日立の郷土教育を進めていく上でのツールだと思っているのですが、果たしてツールとしての役割を果たしているのかどうか、私は気になっています。

「ひたちナビ」アプリを登録しておく、郷土博物館、図書館、調理場などから、良い情報が頻繁に届きます。やはり紙媒体だと最新の情報が手に入りにくいと思いますし、これから新たに子どもたちに1人1台ずつタブレットが配られるので、同じ予算として考えるのであれば、ひたちナビの子ども版のようなものがあって、そこにお知らせが行くとか、郷土教育の推進の仕方をもう一度教育委員会として見直しをしていく必要があるのかなと思っています。特に、教育委員会所管施設だけではなく、例えばインフルエンザの予防接種の開始や今日から税週間が始まるというお知らせとか、小さいころから行政に興味を持ってもらえる1つのツールになるのかなと思いますし、読み上げ機能を活用すると、低学年や特別支援学校に通う子どもたちにも情報が入りやすくなると思います。

良いデータを取っていただいたので、日立の郷土教育の仕方を見直し、より良いものにしていければと思います。

生涯学習課長 御意見ありがとうございます。ひたち大好きパスポート利用施設としてまだ登録されていないところもありますので、子どもたちに日立の魅力を感じてもらえるよう更に充実させていきたいと思っています。また、ウィズコロナ、アフターコロナの中で新たな生活様式に合った利用方法について、タブレットの活用も含め、子どもたちが使いやすいパスポートとなるよう検討してまいります。

(4) 令和2年度日立市立幼稚園等の園児募集について

教 育 長 それでは次に、その他(4)について、子ども施設課長から説明を

お願いします。

子ども施設課長 前年度からの変更点を中心に説明いたします。

まず、日立市立幼稚園・認定こども園在園児数及び募集人数です。資料には、来年4月の入園募集を行う市立幼稚園、認定こども園について、本年4月1日現在の在園児数と募集人数をまとめました。なお、豊浦幼稚園、滑川幼稚園、中小路幼稚園、金沢幼稚園は、来年度の園児の募集は行わないこととし、令和3年4月から休園の予定です。これまでも御説明してまいりましたとおり、市立幼稚園については、少子化の進展に伴い利用者数が急激に減少しており、供給過剰の状況となっておりますことから、2年連続で新入園児が10人未満となった園などを対象に、整理、統合を図っているところですので。これにより、子ども・子育て新制度が始まった平成27年度には市立幼稚園・認定こども園が市内14園ありましたが、来年は5園体制で行うこととなります。なお、私立幼稚園についても、入園希望者が減少している状況にあります。その一方で保育園の入園希望者は増えており、保護者の就労などを理由とした保育ニーズの高まりが要因であると認識しており、この傾向は今後も続くものと考えております。

次に、募集方法についてです。例年同様、10月上旬から各園で入園願書を配布し、受付については、11月上旬に入園を希望する園へ提出していただく予定となっております。

月額保育料については、昨年10月1日からの幼児教育・保育の無償化に伴い、無料です。

委員 来年の4月から休園となる幼稚園が4園あるということで、少子化の状況下ではやむを得ないことだとは思いますが、本来であれば休園する園に行けるエリアの子どもたちが、少し離れたところに通園しなければならないことになると思います。昨年の12月の定例会で、委員の質問に対して、通園バスに関しては今後議論していくという旨の回答がありました。その後通園バスについて、計画や検討は進められているのでしょうか。

子ども施設課長 各園への通園方法については、市立幼稚園については、基本徒歩で通園することをお願いしております。園の数が少なくなっていることや、各家庭の事情もそれぞれございますので、現状では各家庭のお考えにお任せし、自家用車を利用して通園していただいている家庭も相当数いらっしゃいます。ただし、中里幼稚園は平成22年度から休園し、周辺に幼児施設がなくなりましたことから、中里地区にお住まいの方が市立幼稚園への入園を希望される場合、当時は高鈴幼稚園でしたが、現在はみやた認定こども園までタクシー等を

借り上げ、全額市の負担で交通手段を確保しているところです。

今後、中里地区にお住まいの方で、市立幼稚園を希望される方については、どのような形で実施していくか、私立幼稚園も含め、幼稚園入園者数の状況をよく見ながら考えていく必要があるものと認識しております。

委員 よく分かりました。しかし、そうは言っても現実問題として、実際に遠くから通う子もおり、親御さんの負担も増えてしまうとのことですので、是非引き続き検討をお願いいたします。

(5) **文学講座「物語を食べて大きくなった～児童文学作家中村真里子さん講演会～」**
について

教育長 それでは次に、その他(5)について、記念図書館長から説明をお願いします。

記念図書館長 記念図書館では、10月27日から11月9日までの読書週間に、市民の皆様に読書の楽しさを伝え、本に親しんでもらうことを目的に文学講座を開催します。日時は10月31日土曜日、午後2時から午後3時30分まで、場所は多賀図書館4階大ホールです。講師は日立市在住の児童文学作家、中村真里子さんをお招きします。中村さんは、茨城県北生涯学習センター勤務の傍ら、日本児童文学者協会会員として執筆活動をされております。これまで1987年月刊MOE童話賞佳作、第1回ぶんけい創作児童文学賞佳作を受賞され、2016年6月に日本児童文学者協会創立70周年記念出版「文学のピースウォークシリーズ」の一冊として「金色の流れの中で」が刊行されました。講演会では、作品についてや生い立ち、創作秘話、私と児童文学、子どもたちに伝えたいことなどについてお話しいただきます。

是非御参加くださるよう御案内いたします。

4 次回の教育委員会の日程について

教育長 それでは、次回の教育委員会定例会の日程について、総務課長からお願いします。

総務課長 令和2年10月22日(木)午後1時30分から、日立市役所3階304・305号会議室で開催予定です。

5 閉 会

教 育 長 以上をもちまして、教育委員会9月定例会を終了します。

以 上